

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和4年 4月 1日

事業所名 あさがお

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100.0%		十分確保できています。	
	2	職員の配置数は適切である	100.0%			法廷配置以上の人数を確保しています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100.0%		勉強スペース・運動スペースをわかりやすく分けています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100.0%		整理・整頓・清掃の勤めています。さらに、除菌もしっかり行っています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100.0%		全体でのミーティングを行い、問題の洗い出しから解決まで、全員参加しています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%			評価を行い業務改善に繋がっているが、実施していることを社員全体に周知します。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100.0%		自己評価の内容は、全体周知を行い、配布を行っています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100.0%		外部顧問からの月1回の評価を受けています。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100.0%		外部講師等呼び、月1回の研修を行っています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100.0%		保護者のニーズや保育者などと連携を行い、作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100.0%		アセスメントツールは、内容の深いものを使用しています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100.0%		それぞれの子どもの支援に必要な支援を考え、具体的に設定しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100.0%		計画の沿って支援を行っています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100.0%		全体で行っています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%		イベント等豊富に行っています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100.0%		個別活動・集団活動を組み合わせ作成しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100.0%		毎回必ず行っており、その都度確認しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100.0%			送迎等により就業時間が違う社員がいるため、終業じいない社員には翌日行っています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%		業務日誌等必ず記録を取るようになっています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100.0%		定期的または、問題があるときには即時にモニタリングを行い見直しています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100.0%		必ず詳しい職員が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100.0%		保育所や関係機関とはしっかりと連携を取っています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			利用がありません。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			利用がありません。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100.0%		情報共有は常日頃細心の注意を行い図っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100.0%		情報共有は常日頃細心の注意を行い図っています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100.0%		各機関と連携を行い助言等受けています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	75.0%	25.0%		コロナの為積極的に行えていませんでした。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	75.0%	25.0%	養成があった場合は必ず参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%			送迎時や電話で、子どもの状況等共通理解を深めるよう努めているが、さらに理解できる様にしていきます。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	87.5%	12.5%		コロナの為積極的に行えていませんでした。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100.0%		契約時等必ず行っています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100.0%		支援内容の説明は必ず行っており、同意も得ています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%		定期的に行っており、問題があった場合には即座に行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50.0%	50.0%		父母会の実施はコロナの為積極的に行えていません。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100.0%		相談等常に対応できるようにしており、適切に対応しています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100.0%		イベント内容や演奏内容等毎月発信しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100.0%		十分に注意し取り扱っています。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%		それぞれの方法を考え行っています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50.0%	50.0%		コロナの為積極的に行えていませんでした。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100.0%		各種マニュアルは策定しており、周知・訓練を実施しています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100.0%		利用者とともにを行っています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100.0%		間違いがあつてはいけないため確実に行っています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100.0%		保護者へ必ず確認し、指示書の提出をお願いしています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100.0%		作成し共有しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100.0%		研修を行い絶対に行わないようにしています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100.0%		身体拘束は基本的に行わないことを方針としています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 あさがお

保護者等数(児童数) 2 回収数 2 割合 100 %

公表: 令和4年 4月 1日

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	100.0%					
	2 職員の配置数や専門性は適切である	100.0%					
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100.0%					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100.0%					
適切な支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	100.0%					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100.0%					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100.0%					
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	100.0%					
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100.0%					
適切な支援の 提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	100.0%					
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	50.0%	50.0%				常に説明しているが、さらに理解をしていただけるように、丁寧に説明を行っていきます。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている		100.0%				コロナにより積極的に実施できませんでした。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	100.0%					
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	100.0%					
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	100.0%					コロナにより積極的に実施できませんでした。本年度より積極的に行います。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	50.0%	50.0%				適切に対応しているが、さらに理解いただけるように努めていきます。
17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	50.0%	50.0%				今後は情報伝達のたびに、お伝えします。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	50.0%	50.0%				月に1度イベント予定表など作成しているが、発信を積極的に行っています。
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	50.0%	50.0%				十分に注意していることを発信しています。
非常時等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	100%					策定し周知していますが、今後はさらに理解いただけるようにしていきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	100.0%					
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	50.0%	50.0%			イベントによっては行きたくない日もあるようだ	成功体験を増やし、楽しめるよう工夫します。
	23	事業所の支援に満足している	100.0%					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年 4月 1日

事業所名 あさがお

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100.0%			
	2	職員の配置数は適切である	100.0%			法定配置以上の配置を行っています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100.0%		バリアフリーは行っています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100.0%			全体会議など行い業務改善に努めているが、さらに深く理解できる様に行っていきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%		アンケートに加え、随時以降の確認をおこなっています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100.0%			評価結果等、掲示・配布等しているが、職員が理解できる様周知していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100.0%			月に一度外部顧問の訪問を受け業務改善に繋げているが、職員が理解できる様行っていきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100.0%		外部講師による研修を月一回行っています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100.0%		各保護者へのニーズの確認をおこなえる様、対話時間の確保に努めています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100.0%			アセスメントシートは内容の深いものを使用している。職員の理解度を上げるための使用方法などの周知を行います。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100.0%			チームではなく全体で行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%			各種イベントや遠足など行い、固定化しないようにしていますが、さらに工夫を加えていきたいと考えています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100.0%		日々の活動や課題を、個別に考え実施しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100.0%		それぞれの子どもに合わせて適切に行っています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100.0%		全体ミーティングを行い、必ず実施しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100.0%			送迎等により終業時間が違う職員がいるので、打ち合わせ時いない職員については翌日に確実に周知しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%		日報など確実に記録し、実施しています。	
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100.0%		定期的に行い、問題があった場合は即時に行っています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100.0%		ガイドラインののっとり行っています。		

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100.0%		担当者会議にはふさわしいものが必ず参加しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100.0%		連絡調整は日々、事細かに実施しています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100.0%			就学前の保育所等に連絡体制は確立されています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100.0%			就学前の保育所等に連絡体制は確立されていますが、実施しなければならない利用者がいない状況です。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100.0%		各種機関の連携等を行い、助言等行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	87.5%	12.5%		コロナにより、積極的に行えていませんでした。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	62.5%	37.5%		コロナにより、積極的に行えていませんでした。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%			送迎時や電話等で連絡を取り合い理解を得るようにしていますが、今後さらに連絡を取り合える体制を整えていきます。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	75.0%	25.0%	個別に相談や支援を行っています。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100.0%		契約時などに確実にを行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%		保護者と連絡を取り合い支援を行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50.0%	50.0%		コロナにより積極的に積極的に行えていませんでした。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100.0%		確実に対応し、その日のうちに今後の方針を決める体制を整えています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100.0%		各種イベントなどの配布物を月に1回発行しています。	
	35	個人情報に十分注意している	100.0%		個人情報の取り扱いには十分注意している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%		それぞれの方法を考え行っています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	62.5%	37.5%		コロナにより積極的に積極的に行えていませんでした。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100.0%			マニュアル策定は行っていますが、職員が理解できる様しっかり周知していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100.0%			訓練は行っているが、週休日等により参加ができていない職員がいるため、複数回行うようにします。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100.0%		研修を行い絶対にないようにしています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100.0%			身体拘束は基本的に行わないことを方針としています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100.0%		保護者へ必ず確認し、指示書の提出をお願いしています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100.0%		作成し共有しています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和4年 4月 1日

事業所名 あさがお

保護者等数(児童数) 24

回収数 15

割合 62.4 %

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	100.0%					
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	94.0%	6.0%			職員の配置人数が適正かどうかはわからない。	法定人数以上配置しています。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	100.0%					
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	94.0%	6.0%			家庭とあさがおでの過ごし方や感じかあが違い双方意見はあるが配慮は頂いている。	保護者の方のニーズに寄り添い計画を行っていくよう徹底していきます。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	94.0%	6.0%			長期利用しているとイベントがマンネリすることがあり得る。	同じイベントでも内容や手法を変えて行うようにします。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	55.0%	33.0%	12.0%		機会はなくてよい。	コロナにより積極的に行えていませんでした。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100.0%					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100.0%					
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100.0%					
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	61.0%	33.0%	6.0%		機会はなくてよい。	コロナにより積極的に行えていませんでした。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	88.0%	12.0%			苦情がないので、迅速かどうかわからない。	今まで以上に迅速かつ丁寧なご対応を心がけます。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	94.0%	6.0%				情報伝達のための連絡帳の内容などさらに深いものとしていきます。
非常時 等の 対応	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	61.0%	33.0%	6.0%			イベント日程配布物を月に一回発行し、配布していますが、さらに理解を得れるような内容に変更していきます。
	14 個人情報に十分注意しているか	94.0%	6.0%				個人情報には十分配慮しています。
満足 度	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	82.0%	18.0%				マニュアルは策定し、職員への周知は徹底していますが、保護者への周知も徹底していきます。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	94.0%	6.0%			訓練が行われているか分からない。	年に数回訓練は行っていますが、保護者への周知を徹底していきます。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	94.0%		6.0%			更に楽しめる様、イベント等行っていきます。
	18 事業所の支援に満足しているか	94.0%	6.0%				満足頂けるようさらに努力していきます。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。